



TITLE:

『科学哲学科学史研究』投稿規程 ・編集委員会・表紙

AUTHOR(S):

CITATION:

『科学哲学科学史研究』投稿規程・編集委員会・表紙. 科学哲学科学史研究 2009, 3: 87-89

ISSUE DATE:

2009-02-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/72805>

RIGHT:

『科学哲学科学史研究』投稿規定

1. 投稿資格

1. 京都大学大学院に所属し、科学哲学・科学史を専門とする者。
2. 過去に(1)の条件を満たした者。
3. その他、編集委員会が適当と認めた者。

2. 投稿原稿の種類

1. 論文(20,000字以内): オリジナルな論点を含む論文。
2. サーベイ論文(20,000字以内): 特定分野での研究紹介を目的とする論文。
3. 研究ノート(10,000字以内): オリジナルな着想について細部の詰めは残るものの、広く討論に付し、コメントを求める事を目的として書かれる論文。
4. 書評(4,000字以内): 当該分野にとって重要な意義を持つ著作を紹介するもの。書評の対象となる書籍は、原則洋書は刊行後5年以内、和書は3年以内とします。

* 図表や数式については、そのスペース分相当の大まかな字数を含めて計算して下さい。
詳細は、お送りするテンプレートとサンプルを参照してください。

3. 掲載までの流れ

1. 7月末日までに、論文・サーベイ論文・研究ノートの場合は題目、所属とメールアドレス、800字程度の概要を添えて、書評は予定の著作を挙げて申し込んでください。その後、TeXのテンプレートを事務局がお送り致します。
2. 9月末日までに完成した原稿を編集事務局にメールで提出してください。論文の場合は200語以内の英文要旨も添えて提出してください(サーベイ論文・研究ノート・書評の場合、要旨は不要)。期限を過ぎた原稿は受理しませんので、ご注意ください。また、論文受理通知が三日以内に届かない場合は、お手数ですが再度送信をお願いします。
3. すべての原稿について、編集委員が掲載の可否を判断します。特に論文の場合、ブラインドレフェリー制による査読を行います。掲載の可否は査読が終わり次第、(掲載が決定した論文の場合、論文掲載決定通知書と合わせて)メールでお知らせします。

4. その後、事務局が指定した期日までに、著者は修正済み原稿を再度事務局へ送付してください。

4. 執筆形式

1. 論文のファイルは原則 TeX を用いて作成してください。テンプレートは事務局が用意します。
2. 論文については、ブラインドレフェリー制による査読を行うため、本文中で著者を特定できるような表現(「拙論」など)を避けてください。
3. 参考文献表の形式は事務局が用意するテンプレートにしたがってください。
4. 和文の句読点は全角コンマ、ピリオドに統一してください。
5. 本文中のアルファベット、アラビア数字は半角にしてください。
6. 注の付け方：後注ではなく、脚注にしてください。

5. 抜き刷りについて

1. 抜き刷りは別途有料です。

6. 京都大学学術情報リポジトリへの公開について

1. 本誌に掲載された論文などはすべて、京都大学学術情報リポジトリへ登録し、公開いたします。詳しくは <http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/> をご参照ください。

7. 編集委員会・事務局

1. 編集委員会は、編集委員長、数名の編集委員から構成されます。
2. 編集事務局は、京都大学大学院文学研究科現代文化学専攻科学哲学科学史専修に所属する院生から構成されます。

8. 連絡先

606-8501

京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科現代文化学系共同研究室内

『科学哲学科学史研究』編集事務局

E-mail: katetsushi@gmail.com

編集委員会

委員長：

伊藤和行（京都大学）

委員：

伊勢田哲治（京都大学） 澤井直（順天堂大学） 瀬戸口明久（大阪市立大学）

出口康夫（京都大学） 中山康雄（大阪大学） 松王政浩（北海道大学）

松本俊吉（東海大学）

事務局：

606-8501

京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科現代文化学系共同研究室内

E-mail: katetsushi@gmail.com

『科学哲学科学史研究』 第3号（2009年）

2009年2月28日 印刷

2009年2月28日 発行

編集・発行 京都大学文学部科学哲学科学史研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

E-mail: katetsushi@gmail.com

印刷所 株式会社ひかり工房

〒556-0002 大阪市浪速区恵美須東 1-10-2

科学哲学科学史研究

第3号

一般論文

- 田中泉吏・中尾央 道德と言語のアナロジー説の批判的検討
—感情説との比較を通じて— 1
- 中尾央 心のモジュール説の新展開
—その分析と二重継承説との両立可能性— - 21

サーベイ論文

- 有賀暢迪 活力論争とは何だったのか 39
- 佐野勝彦 様相論理へのホモフォニック真理論 59

書評

- Domenico Bertoloni Meli. 2006. *Thinking with objects: The transformation of mechanics in the seventeenth century* (有賀暢迪) 79
- Paul Humphreys. 2004. *Extending ourselves: Computational science, empiricism, and scientific method* (有賀暢迪) 83
-

2009 年

京都大学文学部科学哲学科学史研究室

PHS Studies

No. 3 (2009)

Regular Articles

Senji TANAKA and Hisashi NAKAO:

A critical examination of the linguistic analogy of morality:

Through a comparison with emotional theory of morality----- 1

Hisashi NAKAO:

Recent developments in the Massive Modularity Hypothesis:

Its analysis and compatibility with the Dual Inheritance Theory -----21

Survey Articles

Nobumichi ARIGA: What was the *vis viva* controversy?-----39

Katsuhiko SANO: Homophonic theory of truth for modal logic -----59

Book Reviews

Domenico Bertoloni Meli. 2006. *Thinking with objects: The transformation of mechanics in the seventeenth century* (Nobumichi ARIGA)-----79

Paul Humphreys. 2004. *Extending ourselves: Computational science, empiricism, and scientific method* (Nobumichi ARIGA) -----83

Department of Philosophy and History of Science

Faculty of Letters, Kyoto University